

ますが、それらやその他のマス・メディアによる種々の知識を資料として整理して、生徒に与え、そういう資料をとおして生徒自身に問題を考えさせるようにしたいと考えています。例えば、日本の工業の学習においては、最近では毎日のようにマスコミを賑わしている公害の問題を取り上げ、それと関連させて授業を進めるのも一方法ですし、又A・A諸国の学習の場合には、ベトナムやナイジェリア、ピアフラ、アラブの難民等の問題のようなトピックを取り入れてA・Aグループの現状や問題点を考えさせながらそれらの地域の認識を深めるのも一方法であると思います。このように現実の社会と密接に関連させて授業を進めることは、生徒に授業に対する興味をいだかせることにもなると思います。

次に、地理の学習では当然のことですが、私は、どの単元においても必ず地図を併用することにしていきます。単に、種々の地図についての作成方法や、地図の知識、地図の見方等を教えるだけではなく、統計地図の作成や白地図の作業等を積極的に授業に取り入れることも大切であると思います。これも又多くの生徒に授業に対する興味をそそることになると思います。

生徒自身が楽しいと思う授業が必ずしも良い授業であるとは言えませんが、生徒に、教科に対して興味をいだかせることは授業を進めていく上で大切なことであり、そのための努力はなされるべきであると思います。それ以前に、地理の教師自身が地理学習の意義についての確固たる認識と、それに対する自信と興味を持つことが大切であると思います。 (12回生)

近 況 報 告

定 方 和 子

生まれてはじめて、家族と離れた、見も知らぬ秩父での下宿住まいも、もう4年を過ぎようとしています。

「秩父の山奥(くやしいけれど秩父という言葉の次には、必ず山奥という言葉がついてまわります。)なんかにかまわされないように気をつける。」と恩師から忠告を受けた折も折、なんたる身の不運、まさかこの私が行くことになるとは! 東京を離れる当時は、それこそ悲愴な覚悟で出発したものでしたがそれも過去のことになりました。日がたつにつれて、生徒がかわいくなって(この気持はなってみなければわかりません。)結局通算4年、それも私にしてみれば、ちっとも長い期間ではないから不思議です。

秩父へ行くことだけでも私にとっては大事件なのに、赴任した学校も今様に言えば、アッとおどろく…… できて、創立2年目、校舎も校庭も何もない仮住まい、いるのは生徒と先生だけ、図書の本もまさに最初の一冊からそろえる有様でした。おまけに大部分の先生が経験のない新卒者で、それこそみよみまねで試行錯誤の連続でした。が、みな、なんとか新しい学校をつくりあげようと校長以下、真剣

にとりこんでいました。校舎も不十分ながらで、学校としての体制もとのい、いわゆる世間並の学校という型ができてしまった現在、赴任1年目のあの真剣さを時々過去の郷愁として、なつかしく思い出しています。

学生時代は、スポーツの経験の全然ない私が、引き受け手のないテニス部の顧問になったのも運のつきで、東高での4年間は、テニスに明け、テニスに暮れる毎日になってしまい、教師としていったい今まで何をしたかと問われる時、答えることのできるのは、「テニス部の顧問を4年間続けた。」ということ位ではないかと思えます。はじめのうちは、ラケットの持ち方も振り方もまるで知らず、したがっていくらがんばってもボールの方でラケットに触れてくれようとしなかった私のテニス振りも、(もちろん今だに生徒より顧問の私の方が下手であるわけですが)生徒とまったく同じ一員として素振り、レシーブなど練習に参加したおかげで、現在ではどうやらラケットにボールがあたる位にはなりました。練習も日曜祭日、休みなしの精神で続けてきましたが、そのなかで身をもって学んだことは、結局顧問は上手下手が問題ではなく(もちろん上手であるにこしたことはありませんが)生徒と一諸にできるかぎり毎日練習するなり指示するなりして、同じクラブ生活を体験することの大切さ、ああ先生もとにかく努力しているんだと生徒に無言のうちにもわかってもらうこと、生徒にとって顧問がユニフォームを着てコートにいるかいないかは非常なちがいで、それが教師と生徒との心の交流や信頼関係をつくることになる、ということでした。私の場合は、もっぱらボールひろいと文句をいう専門。おかげでボールひろいだけはまあまあできるようになりました。(これにも上手・下手があります。)

新校舎に移ってから、崖の土をくずしてリヤカーで毎日毎日運び、7カ月かかってようやく何もなかった所に、一面ながら自分達の手でテニスコートをつくったときの苦労(費用はコートの一番上の土の代金1万円だけでした。)もうこんなことはやりたくてもできないでしょう。3年目にしてはじめて、予選を通過し県体へ出場できたうれしさ、部員と私で雲取山に登り、又、東京の私の家へ行ったこと etc……。毎日、生活を共にしていると次第に生徒がかわいくなってきます。そのせいか、いつも私とテニス部員は一緒、テニス仲良しグループなどと皮肉をいわれていますが、卒業したかつての部員が私の下宿へ訪ねてくる時など、いつも、教師になってよかったとつくづく思います。

秩父での生活もこの3月で終りになります。生徒とのつながりは別にして、秩父とはこれで縁切りかと思っていた所、そうはとんやがおろさず、我が背の君が秩父の人とは……。とうとう秩父とは、きってもきれない縁になってしまった次第です。まったく運命とは不思議なものです。

(14回生)